

目的 本報では、性別・年齢階層別・学歴別による勤労観の違いを明らかにしようとする。

方法 性別については、著者らが昭和50年以降調査した学生、中高年、老年の男子1526名・女子2000名の資料によった。年齢階層別については同資料により学生1341名・中高年者1404名・老年者781名の資料によった。また学歴別については、同資料により小中卒者680名・高卒者1015名・大卒卒者1881名の資料によった。

結果 性別については男子は仕事・知識志向型で女子は趣味や人とのつき合いなど快志向と家庭志向の傾向がみられた。

年齢階層別では、学生や中高年層は能力よりも収入重視の傾向が強く、老年層は収入よりも能力を重視する傾向がみられた。また余暇活用については年齢が進むにつれ意欲的な傾向がみられた。

学歴別では、低学歴の方は、毎日の生活そのものを生きがいとする生活志向型が多く、高学歴になるにつれ趣味など快志向が多くなっていった。仕事をもつ意味については小中卒者と高卒者は、人として当然・社会人の役割などと考える使命感的傾向が見られたが、大卒卒者の方は、はっきりした特徴はみられなかった。仕事の選択については低学歴の方は能力よりも収入重視的であり、高学歴の方は収入よりも能力重視的であった。また一般の人びとの余暇活動についての批判は高学歴ほどきびしいものがみられた。